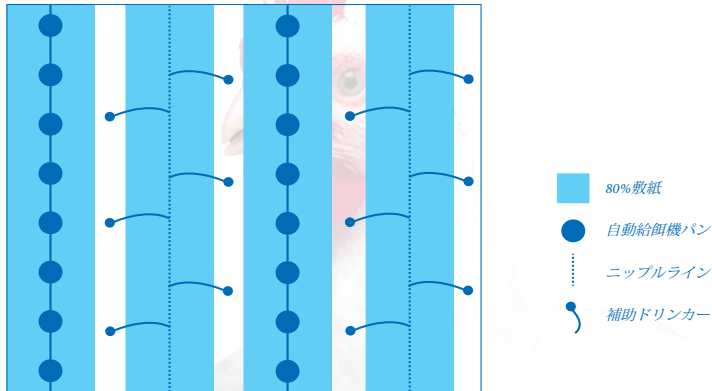


## なぜ正しい温風育雛の準備が重要なのか？

- 育雛期間は初期7－10日であり、この期間の目的は食欲と採食行動の発達のために最適なコンディションを提供することです。
- 正しい育雛域の準備は、鶏群成績、斉一性およびウェルフェアを高いレベルで達成させるための最高のスタートをヒナに与えるでしょう。



## 温風育雛の準備



## 温風育雛準備の手順

床の上に、敷料を最低でも10cmの深さで均等に拡げた、清潔で消毒・乾燥済みの衛生的な鶏舎から始めましょう。

### 器具備品

1. 育雛域を仕切る50cmの高さのプラスチック、段ボールまたは木製板のフェンス
2. 育雛域に敷く餌付用敷紙またはそれに代わるもの
3. ミニドリンカーまたは補助ドリンカー
4. 温度計
5. 湿度計
6. 照度計
7. ヒーター

## 温風育雛準備の手順

温風育雛の場合、ヒナを餌付けする範囲を狭くすることは良い方法です。必要な正しい育雛域の範囲を計算し、ガードを倒れないように固定して設置します。自動給餌ラインや自動給水ラインを跨いでガードを設置する場合、ヒナが逃げないように隙間を確実に塞ぐように注意する必要があります。

餌付け時の収容密度は132羽/坪(40羽/m<sup>2</sup>)とします。

**ステップ1** 敷紙を自動給餌ラインおよび自動給水ラインと平行に育雛域内に敷きます。敷紙は少なくとも育雛域の80%に敷くべきです。

**ステップ2** 敷料の上に自動給餌器を低く設置；自動給餌器が床面に対して水平であることを確認します。もしパンフィーダーを使用している場合、パンの設定は全開にしておくべきです。チェーンフィーダーを使用している場合、最も高い餌高になるように出口調整板を調節します。



- a. 自動給餌機を稼働させ、餌が正しいレベルで満たされていることを確認します。
- b. 刺激を与えるために、3日目まで毎日25g/羽の新鮮なエサを追加で敷紙上に撒くべきです。

**ステップ3** ヒナが制限なくアクセスできるように給水器を低くします。



- ニップルドリンカーを使用する場合は1ニップルあたり12羽
  - ラウンドドリンカーを使用する場合は1,000羽あたりドリンカー6個
- 自動給水ラインと自動給餌ラインの間に、補助ドリンカーまたはミニドリンカーを設置します。
- 1,000羽あたりミニドリンカーまたは補助ドリンカー10個
  - 水を飲むためにヒナが1m以上移動するべきではありません
- 理想的には、補助給餌器も育雛域内に設置するべきです。(100羽あたり1トレイ)

**ステップ4** どのような電子/デジタル温度計または相対湿度(RH)センサーでも、精度を確認するために従来の計器で補正するべきです。

鶏舎の前方、中央および後方にヒナの高さでセンサーを設置します。(How To 03：温度と湿度のモニタリング参照)

少なくとも餌付け24時間前には、予備加温を始めるためにメインのヒーターを稼働します。

餌付け時の推奨される環境コンディションは：

- 舍内温度：30.0℃
- 敷料温度：28.0–30.0℃
- RH：60/70%

**ステップ5** 適切な温度（18.0－21.0℃）の、清潔で新鮮な水を補助ドリンカーに満たします。自動給水機を稼働し、残留水をフラッシングします。

**ステップ6** 照度計を使用し、ヒナの高さで照度30－40 luxであることを確認します。確実に均一な照度にするために育雛域の異なる場所で確認する必要があります。

**ステップ7** ヒナが育雛域全体に確実に広がるように、エサの上に優しくヒナを放します。

**ステップ8** モニタリングと記録

- ヒナのいるところの温度をチェックして記録－必要に応じて調整
- 鶏舎内の相対湿度をチェックして記録－必要に応じて調整
- 照度と照明の均一性をチェックして記録－必要に応じて調整



## 検証方法

### ヒナの行動をモニタリング

ヒナ：

- 均等に拡がっている
- 採食中のヒナがいる
- 飲水中のヒナがいる
- 休んでいるヒナがいる



ヒナは快適

アクションは必要なし

ヒナ：

- 密集している
- 騒がしい



ヒナは寒がっている

アクションが必要

温度と湿度をチェックして調整

ヒナ：

- 鶏舎/チックガードの端まで拡がっている
- 静か



ヒナは暑がっている

アクションが必要

温度と湿度をチェックして調整

## 検証方法

トリの行動をモニタリングすることに加え、以下の項目も評価する必要があります：

- クロップフィル：ヒナが必要なクロップフィルレベルに達しているかどうか（例えば、各日齢の目標レベルより5%以上低いかどうか）  
（ブロイラーHow To 04「クロップフィル調査」参照）
- 肛門温度－推奨温度（39.4－40.5℃）よりも高いか低いか  
（孵化場How To 07「ヒナの快適さチェック」参照）
- 斃死率：予測より高いかどうか
- 7日齢体重－初生ヒナ体重の4倍以上になっているかどうか  
（ブロイラーHow To 05「ブロイラーの群体測」参照）

目標に届かない場合に検討すべき分野：

### 環境

- ヒナ到着前に、鶏舎が予め加温されていることを確認
- モニターしてヒナが快適であることを確認し、必要なら以下を調整
  - ヒナの高さでの温度
  - 敷料の温度
  - 相対湿度
- 育雛域の照度が最適なレベルであることを確認
- 幼雛にとって換気量が適正であることを確認

### エサと水

- ヒナが遮られることなく、エサと水に寄りつけることを確認
- 少なくとも育雛域の80%をカバーする敷紙の上に、エサが均等に撒かれていることを確認
- 与えるエサは、少量ずつ何回も紙の上に補充
- 補助ドリンカーが使われていることを確認

